

「危ないからダメ」でなく、子どもたちが自由に遊べる場を

木と木の間に渡したハンモックで歓声を上げる子、泥だらけになってスコップで地面に穴を掘る子、慣れない手つきでノコギリやトンカチを握って作業をする子……。冬の日の公園の一角に、真剣に遊びに興じるたくさんの子どもの姿がありました。

12月初めの2日間、南区にある別所沼公園で行われたプレーパーク（冒険遊び場）の試験実施。プレーパークの普及・啓発について活動を行っている市民活動団体「さいたま冒険遊び場・たねの会」が市の協力を得て実施しました。

プレーパークとは、子どもたちが自分たちのやりたい遊びをのびのびとできるような、禁止事項を極力なくした野外の遊び場のことをいいます。木登り、泥遊び、火を使った遊びなど、通常、公園では禁止されている遊びもこの日はOK。今回の試験実施では、静岡から講師兼プレーリーダーとして、「NPO法人ゆめ・まち・ねっと」の方3人が招かれ進められました。子どもたちは普段できない遊びがこの日だけできるとあって、自由な発想でもいよいよ遊んでいます！

常設のプレーパークを市内につくりたい！

たねの会がスタートしたのは、2003年。子どもたちの遊ぶ場所が無かったり、室内でゲームで遊んだりという、現在の環境に疑問を抱き、プレーパークに魅力を感じた、母親たちが出会ったことがきっかけでした。

「たねの会の目標は自主運営による常設のプレーパークを設けること。と同時に遊び場づくりは個々を認め合い育ちあいつながりあえる社会をつくっていく手段であると考えています。行政の理解や支援はもちろん必要ですが、行政に最初からすべてをお願いするのではなく、市民の側の理解者・協力者をしっかりと増やすことがまず第一だと考えています」（たねの会代表・佐藤美和さん）

「会のメンバーは、現在、子どもをもつお母さんが主体なのですが、今後はお父さんや年配の方にもっと参加してもらいたいと考えています。本当の子どもの居場所になっていくためには、もっと地域に根づいていくことが必要だと考えています。」（たねの会副代表・安田あづささん）

今回のプレーパーク試験実施では、事前の告知で集まった子どもほかに、たまたま公園に遊びに来た子どもたちも「なんか面白そう」と感じて、あつという間に遊びの輪に加わっていました。子どもたちは、木や土とちょっとした道具さえあれば、自由な発想で楽しんでしまう遊びの天才。たねの会は、そんな子どもたちの無限の創造力と生きる力を信じて今日も活動を続けています。



落ち葉の家やシーツのハンモック、七輪で飴を作ったり、大きなスコップで穴を掘ったり。初めてのことばかりでみんなドキドキ

「さいたま冒険遊び場・たねの会」では、**会員を募集しています。**  
 さいたま冒険遊び場・たねの会では、会の主旨に賛同して一緒に活動して下さる「正会員」、資金面で支援して下さる「賛助会員」を随時募集中です。お気軽に下記までご連絡ください。  
 TEL: 090-7179-5436 (たねの会代表・佐藤美和)  
 Eメール: Saitamaplaypark@infoseek.jp  
 たねの会ホームページ = <http://saitamaplaypark.hp.infoseek.co.jp/>

さいたま市では、公園が地域に親しまれ利用されることが大切と考えています。  
 今回のプレーパークの試験実施では、さいたま市緑の基本計画で整備検討することがうたわれていることから、その検証の機会とするため「たねの会」の活動を支援いたしました。  
 市では、今後もさまざまなニーズに対応した公園の利用方法について、市民の皆さんとともに検討を進めていきます。

# 自分で自由に遊ぶ

people × people

people×peopleコーナーは、まちづくり活動の情報交換の場です。このコーナーへの掲載を希望される団体または個人の方は、さいたま市都市総務課(TEL.829-1394)までお問い合わせください。



代表 佐藤美和さん

プレーパークづくりをめざす  
 「さいたま冒険遊び場・たねの会」の取り組み

木登り、焚き火、泥遊びだつてOK。自然の中で夢中になったり、失敗したり、「やったー」があつたり。子どもたちのための自由と冒険にあふれた遊び場、それがプレーパークです。  
 今回は、そんな場所を市内につくるために活動するグループをご紹介します。



気持ちいいぞ



僕にも切れるよ！



スタッフが集まって事前ミーティング